

# KOZMOS

コスモス No. 93 1991 春

特集

## 図書館自由自在



## 特集

# 図書館自由自在

フレッシュャーズ諸君。入学おめでとう！ 幾多の苦難を乗り越えて大学生となった皆さんを待ち受けているものは勉強です。これからの4年間あるいは2年間、図書館をバンバン利用して、ガンガン勉強してください。と言いたいところですが、最初からあまり力まずに、まず図書館を楽しむことから始めてみましょう。

とは言っても、“学問”という大海原へ漕ぎ出した皆さんが頼りにできるのは、キャプテン（教員）をはじめとするクルー（同級生・職員）と、そして、図書館という“羅針盤”です。図書館自由自在。それこそが“学問の海”を乗り切るための極意にはかなりません。

## ああ、図書館

月野詠美子

不思議なことに図書館にはな・ぜ・かノ2人連れが多い。2人で並んで真剣に励まし合いながら仲よく勉強している2人。特に朝霞の図書館の中でその密度が高いのは1F岩波文庫などが置いてある、あのせま〜い所。2人づれは狭いところがお好きなのでR。「あーまたか」と思いつつ、配架している私、まだっノ23歳乙女。大きな溜息をはーとこぼしている今日この頃なのです。

さて、「図書館自由自在」ということで、図書館の中で発見したものについて、ちょっと書いてみたいと思います。

“3Fの豪華な?!ソファの上にいるとどのような巨大生き物”

時間帯：昼休み終了〜3時にかけて。

数：1又は2。巨大な為それ以上は不可。しかし、「3」という稀な例も目撃されている。

〔分析〕性別は♀が圧倒的に多い。1匹の時は個人でご利用。そして2匹の時は友達同志だろうと思う。何故なら、ソファの上の<sup>とど</sup>になるのは、とても勇気のいる事だからだ。1匹の<sup>とど</sup>がいがびきをかいて寝ている時、「私も」と言っ、一緒に横になることはちょっと恥ずかしい。彼らは“恥じらい”という心の動きも持ちあわせている。そして服装はしわになるズボンではなく、Gパン。ソファにおける人間と<sup>とど</sup>の区別は、足が地面につき、起きている状態か？というところである。足は地面についているが体が横たわっているという非常に区別しにくいものも中にはいるので、その時の印象で区別してみるとよいでしょう。

“チョコレートのおいを残し、誰もいなくなった閲覧室”

「なんかチョコレートのおいがするのよねえ」と、食物に関する嗅覚はとても良い私。何気無く「館内飲食禁止」を唱えつつ、終わりの言葉にしたいと思います。「来ノ来ノライブラリー。ライブラリー」みなさんのご利用をお待ちしております。

(図書館朝霞分館事務課 つきの・みえこ)

## 〈一人で行く図書館〉の 勧め

三石 庸子

新入年の皆さんに、暇潰し(?)のための図書館の利用をお勧めしたいと思います。勿論、図書館は勉強の場であり、皆さんも今に必要に迫られて、目録で文献を探したり、机に山と積んだ資料を片端から読破したりしながら、大学で学んでいるのだという実感をかみしめることでしょう。でも、お気付きの方もいると思いますが、図書館は、仲間もなく、行く当てもなく、たった一人残された時、大学でお金を使わずに時間を過ごすことのできる、唯一の貴重な場所でもあります。最近では読み物だけでなく、視聴覚の分野も充実し、相当広範囲に楽しむことができるようです。

もう遠い昔となった我が学生時代、図書館が身近な所となったのは、大学の近くに下宿してからでした。サークル、自治会活動、講演会等、大学らしい活動は全て授業が終わる頃始まるのだと、その時気付いたのですが、それにしても、なお持て余す位の自由時間が夜まで長々と残されたのです。そんな長い夕べ、一人当てもなく図書館に籠ったことが、今懐しい思い出となっています。ピンク色の夕日を眺めたり、窓辺で話し込む後輩のカップルを見つけてドキッとしたり、帰り道、真暗になった研究室に灯りを見つけて、学問に励む師の心に触れたように思い、深い共感を覚えたり…。又、何故か滅入った時、J. D. サリンジャーの短篇を読んで、急に周囲の世界がパッと明るく開け、身近な、暖かいものに思われるという、衝撃的な本との出会いもありました。一人、漠然と何かを求めながら図書館で過ごしたそれらの時間は、大学生生活

の余白的な部分かもしれませんが、得難い体験であったように思います。皆さんも一人になった時、図書館を彷徨ってみませんか。きっと、私などとは比べものにならない程すばらしい何かがある、見つけられることでしょう。

(短期大学助教授 みついし・ようこ)

## 書棚の林のなかで

伊藤 繁夫

当大学に来てまだ一年も経っていない身ですが、何故(?)か図書館自由自在と言うテーマで書いて欲しいという依頼を受け、頭をかかえてしまった。自由自在とまではまだ本学の図書館を充分使いこなしていないからである。はてさて、何が書けるかと思いつつ期日が迫り、苦し紛れの結果が以下の文である。

自由自在の利用といくまでには、誰しも時間がかかると思います。図書館に行くと、思うように目的としたものが見つからなければ、落胆し、探すのを諦める事があるかと思えば、単に探し方が悪いのだと自分に言い聞かせてねばり強く探す時もあります。特に、勇んで探しに行き、目的が満たされないと、まるで愛しい人にふられてしまったような感じを受けたりもします。

とにかく、最初のうちは、図書館にまめに足を運び、くまなく書棚を眺めてみましょう。どの分野の資料はどこそこにあるかと大体頭に入ってきます。するとその後の利用がぐーんと楽になります。特定の探しものは、目録(検索)カードでもかまいませんが、直接書架の林の中を歩いてみることも大切でしょう。そして、ふと思いがけない資料、書籍等に出会えた時の感激はなんとも言えません。文献でも、これで何度か貴重な資料を見つけてい



ます。中でも、書物の間から僅かに顔を覗かせていたものを見つけると、さぞかし待ちこがれていただろうと思ってしまいます。

自由自在に図書館を利用できるようになれば、あなたはもう、必要な時に必要な情報をたやすく手に入れることが出来るようになるでしょう。書物は静かに眠らせておくだけでは何の役にも立ちません。あなたに利用される時を待ちこがれています。必要な情報は明日といわず、思いついたらすぐに図書館に向かい、手にいれましょう。それが、情報化時代を生き延びる心得でもあります。

図書館自由自在のつもりがいつのまにか文章自由自在ライクとなってしまったようだ。

(工学部助教 いう・しげお)

## 他大学の図書館も 「自由自在」に

大豆生田 稔

当然のことかもしれないが、総ての書物や資料を所蔵している「完璧」な図書館など存在しない。他の図書館にはない貴重な蔵書群をもちながら、当然所蔵すべき基本的な文献がないことがある。図書館はそれぞれの個性をもっている。「短所」はある程度補われるべきであるが、むしろ特色のある「長所」をもった図書館こそ魅力的な存在である。

「短所」を克服し、各図書館の「長所」の恩恵に浴するためにはどうしたらよいか。様々な図書館を利用することになるが、近年図書館のネットワークが緊密化している。つまり本学図書館を通じて、全国各地の図書館利用がかなり円滑になっている。

そこでこうした利用方法の一例を、私の場合に即して紹介しよう。『台湾農事報』という日露戦後から台湾で発行された雑誌は、残

念ながら本学図書館にはなかった。このため本誌を比較的多数所蔵している首都圏にある大学図書館を利用することになった。この場合本学図書館で発行してくれる他大学図書館への紹介状がものをいう。これがないと利用を断られる場合が多いが、本状を提示すれば種々の便宜をはかってくれる。

だが首都圏ではどうしても収集できない記事がいくつか残った。調べてみると、その記事を載せたバックナンバーは日本では北海道大学図書館にしかない。だが数編の記事のためだけに、わざわざ札幌まで行く決心はつきかねた。若干時間の余裕もあった。そこで本学図書館の参考係に相談すると、図書館を通じて北大図書館所蔵資料の複製依頼が可能で、コピーが送られるとのことだった。さらに参考係ではより詳しくバックナンバーの所在を調査し、そのうちの数点は首都圏で収集できることがわかった。北大利用の記事は絞られた。こうして白山に居ながらにして、北大図書館の所蔵雑誌のコピーを手にすることができたのである。本学図書館のカウンターは他の図書館への入口でもあるのだ。

(文学部助教 おおまめうだ・みのる)

(注)本文中、ゴシック体は編集委員会で付けました。

★

みなさんが図書館ではじめて接する職員は、カウンターにいる係でしょう。次頁では、各館の係から新入生のみなさんに、一言ずつメッセージをお送りいたします。

私たちは、みなさんとの出会いを大切にしたいと思います。

### 《表紙の絵》

大学は1年で一番華やかな季節を迎えています。希望にあふれる新入生。思いも新たな在校生。そんな雰囲気絵にしてくれたのが  
中哲2年の雀林上総さん。春だなぁ!

# Welcome フレッシュャーズ!!

## <朝霞>

朝霞分館には、一般図書約13万冊、雑誌は1,300タイトルあります。図書館は意外とおもしろい所ですヨ。本を読むだけでなく、軽読書やビデオ等もあり固いイメージとは違います。とにかく気軽に来て、大いに活用して下さい、お待ちしております。(おおあらい)

大学生活の第一歩は、まず、図書館巡りから始めてみてはどうでしょうか。

場所は、2号館の奥にあります。ぜひ一度のぞいてみて下さい。(なかがわ)

朝霞校舎で唯一、音と映像にゆっくり浸れるところがある。それも無料で！学生証か図書貸出カードがあればOK。

どんなところ？ 思ったらまず 図書館へ3F視聴覚(AV)室からでした。(ひさすえ)

## <工学部>

工学部のみなさん、レポート天国へようこそ。物理学実験と化学実験で各々、最低12件以上。その上、学科の実験が週1回として、年間では？ がんばって仕上げた厚いレポートをとじるステイプラーあります。(ちば)

カウンター内で唯一の男性である私は、見た目は恐そうですが、やさしくかつ力持ち(?)で、「おっと」と時折こける人情み溢れるおじさんです。このおじさんが、視聴覚担当ですので、一度来て下さい。(とみざわ)

学生生活をエンジョイしたい？ でしたらまず図書館へどうぞ。書棚に並ぶたくさんの蔵書を自分の本棚同様に使えるようになったら

しめたもの。週1回のレポートも卒論だってこわくない。係は大事な情報源、お友だちして使っちゃおう。(やまうち)

## <白山>

本の扉をあけ、何かを吸収しようとした時あなたは探究への道を歩み始めている。限られた“とき”での数少ない珠玉との出会い。柔かな頭脳に言葉の泉を。心に秘めて本はあなたを待っている。そして私も。(いけだ)

CD-ROMに新しい仲間が加わりました。「CD-HIASK」(朝日新聞記事情報)です。1985年～89年の記事が入っています。任意のキーワード検索で、素早く必要な記事が呼び出せます。ご利用は係まで。(はら)

「かもめのジョナサン」の作者リチャード・バックの「イリュージョン」を読んだのは、訳者村上龍が好きだったから。知的興味はいつもイモヅル式。図書館には、知的興味を爆発させる地雷が埋まっている。(ふかや)

学生が図書館を利用する場合、一般的に試験やレポート提出の直前に殺到しているようです。それ故、利用が集中する前に来館する習慣をつけることをおすすめします。皆さん賢く学び、それから遊ぼう！(ふじた)

「いきなりレポート!! どうしよう!？」なんて困った時など図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。図書館には、いろんな資料があり、なにかと便利なんですよ。きっとレポートなんかの出来もちがうぜ!!(まさき)

必要な資料を探すお手伝いをします。詳細は利用の葉にある通り。他機関への紹介や、コピーの取り寄せもOK。それだけに無断持出、切り抜きはやめて下さい。出来ない相談(クイズ、医療)もあります。(むらた)



## 蔵書探訪 5

# 円了と日本の近代化

高木 宏夫

〔蔵書探訪というにはふさわしくない一文だが、蔵書といえるまでにはまだまだ年月がかかるむづかしさを御理解願えればと考えて記した。〕

### 1 一枚のメモ

「井上円了資料室が設置されたのに対応して、大学図書館も特定の理念にもとづく個性をもつよう充実努力しなければならないと思うのですが、これでどうでしょう」と一枚のメモを飯島さんから渡された。昭和58年初秋であった。故飯島宗享教授はキエルケゴールの研究者で、53年の「井上円了研究会第3部会」発足から、東洋大学の将来について語り合ってきた仲である。

井上円了研究会は、いうまでもなく創立者井上円了に関する研究会であるが、哲学堂に関する諸案件処理と共に設置された「井上円了記念学術振興基金」（53年1月施行）の助成金を得て54年11月に発足した。昭和61年がたまたま東洋大学創立100周年にあたるころから、この研究会の要望に応じて、大学図書館は、井上円了関係の文献資料を一ヶ所に集中管理し、研究者の研究の便宜をはかって、乏しいスペースを割いて「井上円了資料室」を設置してくれたのである。こうしたことは大学全体に何とはなしに創立者への関心を生み出すことに大きい役割を果たし、「どこかでやってくれるなら、敢えて反対はしない」という雰囲気が生まれてきた。

飯島さんのメモには、「図書館における蔵書の個性形成について」とあって、後述の趣旨が、項目中心に記されていた。かねてから研究会を通して共感をもっていったことは、「どのようにして東洋大学を浮上させるか」という点である。「教員はよくいえば個性的、職人的で、専門外の他人の研究に無関心」と

言われる状況があるために、なかなか「大学の浮上」という単純な目的でも、それをめぐる一つのアイデンティティを共有することは難しい。一方卒業生を組織した校友会はそれがなければ成り立ちにくいという集団で、その当時の井上円了研究には、この意味での価値評価とそれへの反発がつきまといがちで、客観的研究の難しさがあった。しかし、図書館の収書の個性化にみられるように、井上円了をめぐる客観的研究の条件整備を大学全体の問題として提起できるようになったのである。

### 2 大学図書館の個性

前述のメモはやがて、59年1月18日の「東洋大学白山図書館における蔵書の個性形成について」というB4で1枚にまとめられた文書となって、全学的な組織「個性形成懇談会」が開かれ、その内容が承認された。

その内容は、東洋大学図書館が努めてきた「諸努力を継承し、新しい理念の許に展開する大学の活動に呼応した図書館の展開」を期待し、「大学の方針に従って認定される」五つの条件、「民衆に高等教育を普及しようとした創立者井上円了博士の理念に基づき、民衆の知的要求に応答し、開かれた大学の創出に努力を積み重ねてきた」「哲学を基盤とする哲学館が創設された意味を問うこと」「国際交流を促進する基本理念を確立すること」「民衆の生活行動を対象とする学際的研究方法を開拓すること」「大学の長期目標を確立し、目標実現のために中期、短期の目的を設定しうる機動的な教学体制を作り上げること」の五項を挙げ、この特質を生かす収書主題を「民衆の生活基盤としての東洋学(仮称)」と名づけた。しかし現実的には難しいので、次のように具体化しようと提案していた。

「第一着手として、哲学堂図書館所蔵書と関連づけた“民衆水準における19世紀末の日本思想の形成”(仮称)という主題に沿った収書計画を策定する」ことが提案された。そして、「この構想は全学的合意なくしては推進され得ない。特に研究集団の積極的理解と

支援のもとに展開することが望まれる」とあるように、各学部、短大から委員が選出され、同年7月11日の懇談会において、テーマは「井上円了と明治思想」と決定されたのは、東洋大学創立100周年の記念行事が盛大に行なわれる2年前のことであった。

### 3 収集された資料

それから今日まで6年すぎた。この収集の提案者飯島宗享教授は、東洋大学創立100周年に当たる1987年4月に亡くなられた。なんとも残念で仕方がないが、関係者はこの仕事を十分果たすことによって、遺志を継承発展させている。とくに「作業部会」(各学部一名)の諸先生は、その実務を担当されて、予算内で資料を収集するという困難な仕事を遂行されている。この分野はいわゆる「古本」の中から探すことが多いだけに、折角よい資料をみつけたからといって、そのまま手に入るわけではなく、しかも予算にしばられている。ある年はよい資料が少ししか出ないし、また別の年は多いということがあっても、予算の次年度繰りこしも前倒しもできない。この問題をめぐって、本屋さんとの折衝をしなければならぬのも事務職の方々で、関係者の熱意がなければ遂行し難い事業が、今日まで続いているのである。

なお、附言の形で申しわけないが、もう一つ以上の経過説明では欠落している部分がある。それは、伝統的に継承されてきた「百人一首」関係資料の収集も本懇談会で扱う重要課題となっている。また、「～文庫」等の形ですでに体系的にまとめられている資料の一括購入に関する作業等も担当していることである。つまり東洋大学図書館が他の大学、その他の図書館とはちがった個性をもって図書館界に役立ち得るものは、検討の上、収集を担当しているのが現状である。

この6年間に収集された資料のうち前記の趣意によるもののみを、昭和60年7月11日の個性形成懇談会において決定した収集基準ならびに収集重点順序別(数字順)に従って、本年3月15日現在までの収書合計973件の状

況をみると、つぎのようになっている。

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1 井上円了著作関係       | 43  |
| 2 井上円了関係著作       | 86  |
| 3 明治期を主とする日本近代関係 | 844 |
- これを年次別にみると、215(S60), 133(S61), 72(S62), 127(S63), 287(H1), 142(H2)というように、年次によって大きく変化がみられる。

### 4 若干の問題点

この収集には上述のように、関係者はさまざまな困難をかかえているが、それはそのままここでいう問題点の反映である。

まず第一の収集順位のトップの井上円了著作関係についていうと、大部分は収書されているが、『三学論』は印刷されたかどうか、今のところ分らない状況で、これに準ずるものが残されている。80周年に現在の取り組みがあればよかったのにと、「ないものねだり」と承知しながら、ぐちがでるような「遅きに失した」感がある。

井上円了の「書」は全国にわたってまだ多く残っていて、古書店、古道具店に出てくるが、その値段は約10年間で約4倍にはね上がっている。大学が買うという噂が値をつり上げ、大学が買えない条件を發展させるという矛盾が起こっている。

日本の大学の歴史は明治以降で、ここ数年間に100年を迎えた大学が多く、また日本の経済成長にともない、「近代化論」「近代化史」がとりあげられ、関係書の要求が高まって、現在もこの傾向は変わっていない。ということは本が手に入りにくいということである。

最後の問題は、収書した限り、これをどのように収納し、情報化するかが問題であるが、「井上円了資料室」との関係や、集中管理か旧来の分類に従い収納するか、まだ決まっていない。早急に解決しなければならない時に再開工事という新しい条件が加わりさらに決定が困難になっている。

(井上円了記念学術センター所長  
図書館個性形成懇談会座長  
社会学部教授 たかぎ・ひろお)



## 図書館 あ・ら・かると

### ★3館のプロフィール★

#### <朝霞>

朝霞分館の一部を、ご案内したいと思います。

入口左手を御覧下さい。カウンターでは、当館選り抜きの職員が笑顔でお迎えます。決して怖くはありません。何でも質問して下さい。右手奥より軽読書コーナー、目録コーナー、参考図書書架と続き左側は雑誌書架、その周りを閲覧席がぐるーっと囲んでいます。1Fに降りますと、ダーッと一般書が並び、製本雑誌、大型本などもあります。駆け足で3Fへ、広ーいロビーにソファーが目に残りましたでしょうか、あれ!!本がない…慌てない慌てない。ドアをひとつあけるとあったあったというわけで3Fには語学・文学関係の本が配架されてます。さて、とっておき当館自慢の場所それがAV室です。とここで時間切れ!!エーッ!!と声をあげてしまったあなた、つづきはご自分の目で確かめて下さい。

#### <工学部>

工学部分館がどこにあるかご存じですか? 現在建設中の中央棟東側にあるんですよ。ここには知的情報源として、高度化社会における最先端技術の研究・教育・学習活動に應える為、理工学関係資料を中心に12万5千冊を収蔵しています。講義での補助教材や幅広い教養の培養と、国際化対応の為、数多い海外資料も収集しております。また、急速に伸展

する技術革新のビデオテープや語学習熟の一助となるカセットテープや娯楽関係の映画、CDなど、貸出を含め沢山の視聴覚資料を用意し、あなたの来館を待っています。早起きさんの新聞、余裕と頭痛時の軽読書、困った時の神頼み、欲求不満の解消、一度来て好きになる。これが図書館なのです。レポート作成に何をどうして探すか、借りる方法は、以前の雑誌、新聞を見たい、などなど、閲覧室カウンターで親切丁寧に指導助言を行っています。学園生活を楽しく、密度の濃い人生を一步一步踏み締め、悔いのない4年間でありませう期待しています。来たれ図書館へ!

#### <白山>

図書館なのに本がない……。このような印象を持たれる方がいます。実は、大部分の図書が利用者のみなさんの目に直接触れることのないところにあるからです。だから、探している本が見当たらないからといって、すぐにはあきらめないで下さい。そのような時には、ぜひ、係にご相談下さい。50万冊を上回る蔵書があり、これらの資料はみなさんの学習、研究の強力なパートナーとなることでしょう。その他に、3階第3閲覧室には話題の本、面白い本を集めた「軽読書コーナー」があります。どうぞご利用下さい。

### ★朝霞知る知る見知る★

4月より“専任教職員著作コーナー”が新登場!?“あの先生、こんな分野の本も書いているのかー”と新しい発見があるかも…

#### 訂正

前号(92号)の表紙の絵の作者、松本照美さんの所属は、中国哲学科ではなく中国哲学文学科でした。おわびして訂正いたします。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN **KOSMOS**

1991 春 (No. 93) 1991年3月28日発行 編集:コスモス編集委員会 発行人:山崎正巳 発行所:東洋大学附属図書館 〒112 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. 03(3945)7314 ©東洋大学附属図書館 1991